

今も残る精道村のおもかげ

昭和15年(1940)11月10日、精道村が終焉^{しゅうえん}し、芦屋市になりましたが、その後、昭和20年(1945)に4度の空襲を受け、平成7年(1995)1月17日には阪神・淡路大震災が起こり、多くのものが失われました。しかし、精道村の終焉から80年たった現在でも、精道村の頃のおもかげが街中に残っています。

阪神電鉄芦屋川橋梁^{きょうりょう}

現在、阪神芦屋駅(6・7ページ)のホームになっている芦屋川橋梁の橋脚は、中央の部分がかこうがん^{かこうがん}きりいし^{きりいし}による石積みで、その両端をコンクリートで南北方向に拡張しています。この石積みの部分は、大正以前のもので、



業平橋^{なりひら}

大正6年(1917)に架けられた初代業平橋は木造でしたが(15ページ)、阪神国道(9ページ)の建設に伴い、大正14年(1925)に花崗岩と鉄筋コンクリート造の橋に改築されました。

六麓荘住宅地の痕跡^{ろくろくそう}

現在の六麓荘町には、六麓荘住宅地(11ページ)開発当時の地形やそれぞれデザインの異なる石橋が残されています。また、「六麓荘」の石碑や、株式会社六麓荘の社章があるマンホール蓋や街灯を移設保存しています。

「六麓荘」の石碑



精道村立芦屋公会堂の瓦

芦屋市民センター本館の南庭に、精道村立芦屋公会堂(13ページ)の屋根に葺かれていた棟飾り瓦を保存しています。



芦屋遊園地の痕跡

現在の芦屋公園は、精道村の頃には芦屋遊園地と呼ばれていました(15ページ)。これは、精道村が明治40年(1907)に開設したもので、美しい松林の散策や松露採りを楽しめました。

芦屋公園内には、石碑や築山、休憩所として利用されている元バスの待合所など、芦屋遊園地の痕跡が残っています。



「芦屋遊園」の石碑



築山前にて(昭和13年〔1938〕撮影。市民提供)



芦屋公園に残る現在の築山の姿

左の写真は、昭和13年(1938)3月に精道小学校3年3組の修了記念に撮影されたものです。この写真の児童たちの背景に写っている築山と、現在の芦屋公園にある築山(右の写真)を見比べると、築山の表面の石や、写真右端の橋など、ほとんど姿が変わっていないことがわかります。